

長野県小児科医会災害対策 WG 立ち上げの経緯と現在の状況

2019 年の千曲川が氾濫した際、長野市の NPO 法人「ながのこどもの城いきいきプロジェクト」では、いち早く避難所に子ども達の遊ぶ場所を作り活動されました。その責任者が当会会員の田中宗史先生です。長野県小児科医会では、田中先生を中心に災害対策部会を作っていましたが、昨今の災害の多発を鑑み県内の小児科医を中心により積極的に災害対策を考えようと長野県小児科医会災害対策 WG を立ち上げました。

もとより災害対策は小児科医会だけでできるものではありませんので、他の診療科の医師、コメディカル、福祉や教育関係者、行政との幅広い連携が必要です。1 年を目途に具体的な成果を得るために、昨年 10 月の時点では、以下のような①～⑥の工程を考えました。

- ① 10 月一杯か、11 月半ばくらいまでには、WG のメンバーを決める
- ② 11 月中に初回の WG の会議をオンラインで実施する。
- ③ 12 月の秋の総会の「小児科医をめぐる諸問題」で、長野県健康福祉部 保健・疾病対策課長の宮島有果先生に、長野県の災害対応の講演をしていただき、WG 活動のスタートとする
- ④ 1 月以降は、月に 1 回長野県小児科医会災害対策 WG の会議をオンラインで行う
- ⑤ 本年度中に長野県版の「小児・医療ケア児災害対応マニュアル」の原案を作成する
- ⑥ 来年の春の総会で、小児・医療的ケア児・新生児・周産期の災害時対応についてのシンポジウムを行う
- ⑦ 1 年を目途になんらかの災害訓練を行う（具体的にどうするのかの議論が必要）

現在第 3 回までの災害対策 WG を終了したところで、多くの小児科医、多職種の方々が参加し、徐々に災害対策に対する理解が深まりつつあります。おりしも本年 1 月 1 日に能登半島地震が起き、支援が難しい状況を目の当たりにし、わが事として災害対策を考えるようになったと思います。特に、災害時には、現在行っているオンラインによる会議のように、お互いに顔の見える関係を平時から築いておくことが重要だと考えています。

今後、長野県医療的ケア児等支援センターおよび県職員の皆さまにはお世話になると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

長野県小児科医会災害対策 WG 天野芳郎